



バーナード・リーチ《楽焼駆兎文皿》千葉・我孫子にて 1919年 日本民藝館蔵

企画展 平成29年4月15日(土)～6月4日(日)

2 日本民藝館所蔵 生誕130年 バーナード・リーチ展

企画展 平成29年7月15日(土)～8月27日(日)

3 つばさの博覧会 —巨大翼竜からペンギンまで—

4 シリーズ「学校と博物館をつなぐ」⑧ 学校教育と博物館 ～博物館で何ができる?～

5 [自然] コラム 変わらない標本・変わる価値観 - 鳥取砂丘から消えたハラビロハンミョウから考える -

6 [人文] 資料紹介 鳥取藩の鷹場を描いた絵図

コラム 大山・三宝荒神社跡での荒神神楽

7 [美術] レポート 屏風レプリカで鑑賞授業

コラム 旅する展覧会 ～「日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト」～

8 イベント案内：前期（4～9月）

日本民藝館所蔵 生誕130年 バーナード・リーチ展



《柳宗悦像》1918年

長くデフォルメされた耳と、こちらを斜めに見やる眼差しが印象的な兎の姿。味わい深い色合いの皿の上で飛び出さんばかりに駆ける兎は、生命がもつ伸びやかな力をユーモラスかつ親密感たっぷりに文様化したもので、皿の作者のなかにある自然への愛情を感じさせるものとなっています。

この魅力的な陶器《楽焼駟兎文皿》(二本紙表紙)をつくったのは、英国人のバーナード・リーチ(1887年～1979年)。陶磁器をはじめ銅版画や素描などを制作した20世紀英国を代表する芸術家です。香港で生まれたリーチは3歳まで日本で過ごし、10歳になると母国での教育を受けるためアジアを離れ英国に渡ります。まず厳格なカトリックの学校教育を受け、その後入学したスレイド美術学校では画家のヘンリー・トンクスのもとで素描を、ロンドン美術学校では同じく画家のフランク・ブラングウィンから銅版画を学びました。美術と同時に文学にも傾倒していたリーチは、なかでも小泉八雲の影響を受け、日本への関心を強く抱く多感な青年へと成長したのです。そしてロンドン美術学校時代の高村光太郎との出会いが、日本文化への憧れをさらに強くさせたのでした。

1909年、念願の再来日を果たしたリーチは、東京で開いた銅版画教室をきっかけに若い作家たちと交流を深

めるなか、偶然参加した楽焼の絵付け体験から「やきもの」の世界に興味を抱いて六世尾形乾山の門を叩き、以後、陶芸の道に入っていきます。冒頭で紹介した兎文の楽焼の皿は1919年に焼かれたもので、1920年に英国に戻るまでのリーチ初期の代表作のひとつです。



《鉛釉筒描井戸文陶板》鳥根・布志名にて 1934年

リーチの作風は、得意の線描を生かした絵付けを施しつつ、李朝陶磁器の造形と風合いを範とした、渋い色調と用に即した簡素な形態を特徴とするもので、今なお世界中の工芸ファンに愛されています。その生涯においては、富本憲吉や濱田庄司、河井寛次郎らの陶芸家と深く交流しましたが、なかでも、最も強く影響を与え合ったと言われるのが思想家の柳宗悦です。彼との交友を通じて民藝運動にも深く参画したリーチは、日本各地の窯場を訪ねて技術指導をし、自らも作陶しています。山陰については、鳥取県では牛ノ戸窯で、鳥根県では布志名の船木窯や出雲の出西窯などで指導を行っています。

2017年はバーナード・リーチ生誕130年の記念すべき年に当たります。本展は、柳が創設した日本民藝館が所蔵する、リーチの最初期から晩年までの陶磁器を主軸に、銅版画・素描・木工の優品約200点を一堂に展覧し、ま

た初公開となるリーチと柳の往復書簡も併せ、リーチの芸術活動を広く紹介するものです。会期中に行う関連プログラムもおすすめです。スペシャルギャラリートーク「リーチ作品の魅力語る ～その思い出とともに」では、生前のリーチと親交のあったクラフト館岩井窯主宰の陶芸家・山本教行さんを講師に迎え、リーチとの出会いなどについてお話を伺い、その作品の技法的特徴や魅力について解説していただきます。さらに、1953年に行われたリーチと河井寛次郎、濱田庄司、柳宗悦の4人による座談会を記録したSPレコード音源をもとに制作された映像の上映会も行います。4人が語り合う音声記録は他に見つかっておらず大変貴重です。東洋と西洋の文化の融合—東と西の結婚—という理想を掲げたリーチが、日本の思想家や陶芸家たちとどのような対話をしていたのかを知る機会としても楽しんでいただきたいと思います。

※関連プログラムの詳細は8ページをご覧ください。

(美術振興課 三浦 努)



バーナード・リーチ肖像写真 1935年

【掲載作品】
作者は全てバーナード・リーチ、所蔵先は全て日本民藝館



《染付彫絵樹下婦人図皿》東京・麻布にて 1920年



図1

企画展 平成29年7月15日(土)～8月27日(日)

つばさの博覧会 - 巨大翼竜からペンギンまで -

空を飛ぶ能力を得ることは、その動物にとって文字通り大きな飛躍をもたらします。これによって敵から逃れ、餌を探し、新天地に移動する能力はるかに向上するのです。その一方、飛翔には大きなエネルギーとたくさんの工夫が必要であり、地球の歴史上、これをなし得たのは昆虫、翼竜、鳥、コウモリの4グループだけです。

本展覧会では、これらの動物にみられる「つばさ」の特徴や体の構造に見られる「空を飛ぶための工夫」に注目します。ここでは、その中から翼竜と鳥にスポットを当てて紹介しましょう。

指のつばさ：翼竜類

翼竜は、中生代三畳紀後期から白亜紀末(約2億2500万～6600万年前)にかけて生息した、空飛ぶ爬虫類です。脊椎動物としては最初に空を飛んだグループで、中には“史上最大の飛翔動物”と言われるケツァルコアトルスも含まれます(図1)。

翼竜のつばさは、前肢の薬指(第4指)が非常に長く伸び、そこに皮膜を張った「指のつばさ」と呼べる構造をしています(図2)。なんとつばさの約半分

は、巨大化した指1本で支えていることになります。

これまでに世界各地から100種類以上の化石が見つかっていて、それぞれ興味深い特徴があります。例えば、まばらな鋭い歯をもつもの(魚食?)や、頑丈で平らな歯をもつもの(硬い貝を割って食べた?)、櫛のような細く多数の歯をもつもの(水中の微小な餌を濾しとって食べた?)などが知られています。展示では、貴重な実物化石とともに、こういった彼らのくらしぶりについても紹介していきたいと思います。

腕のつばさ：鳥類

私たちの身近にもいる鳥類は、中生代ジュラ紀(約1億5000万年前)、恐竜類の1グループから進化しました。

鳥のつばさは、前肢全体に「風切羽」など多数の羽毛が備わることによってつくられた「腕のつばさ」です(図3)。「風切羽」や「小翼羽」など様々な羽毛を駆使して複雑な空気の流れをコントロールすることで、鳥類は高度な飛翔技術を獲得し、現在に至るまで地球の空を支配しています。

体には空を飛ぶための様々な工夫が

見られます。例えば胸骨には「竜骨突起」という張り出しがあり、そこに分厚い「大胸筋」がつくことで力強い羽ばたきを可能にしています。これらはそれぞれ、焼き鳥でおなじみの「ナンコツ」「ムネ肉」に相当します。

鳥の飛翔を支える羽毛は、他にも様々な役割を果たします。例えば、美しい色彩や奇妙な形で「飾る」(図4)、逆に保護色となって「隠れる」、はたまた「保温」「滑り止め」「消音」「防水」「虫を捕らえる時の補助」等々、じつにバラエティに富んでいます。そして私たち人間も、そんな羽毛の有用性にいち早く気づき、温かい羽毛布団など様々な恩恵にあずかっています。

今でも私たちのまわりでは、鳥をはじめ、昆虫やコウモリたちが当たり前のように空を飛んでいます。しかしその背景には、様々な進化の妙が込められているのです。この展示を通して、空を飛ぶ動物たちの不思議さと魅力を楽しんでいただけたらと思います。

(学芸課 一澤 圭)



図2



図3



図4

- 図1 巨大翼竜ケツァルコアトルス生体復元模型
(所蔵：北九州市立自然史・歴史博物館)
つばさを広げた長さは約10m
- 図2 翼竜プテラドンの前肢実物化石
(所蔵：栃木県立博物館)
下側半分が薬指(第4指)
- 図3 キジの風切羽つき骨格標本
(所蔵：我孫子市鳥の博物館)
- 図4 飾り羽が見事なオウギバト剥製
(所蔵：群馬県立自然史博物館)

シリーズ「学校と博物館をつなぐ」⑧

学校教育と博物館 ～ 博物館で何ができる？ ～

私事で恐縮ですが、中学校理科教諭から博物館に普及担当として異動となり8年が経過しました。それまでは日々の授業と部活動に追われ、校外学習で博物館に行くようなことは数年に1回あればよい方で、ましてや資料を借りて授業ができるなんて心の片隅にもありませんでした。こうした状況は、現在の先生方も同じなのかも知れません。

博物館に異動となった当時は、業務内容はとても新鮮だったのですが、担当職員が私一人だけであったこともあり、次から次に舞い込む仕事に手探りで立ち向かう日々でした。その反面、気づくことも多くありました。それは、博物館には鳥取県に関連した授業で活用できる資料が数多くあるということ。そして、それらの資料に纏わる専門的な知識を持った学芸員がいるということでした。博物館は、資料と学芸員の知識が一体となって機能していることをあらためて知ったのです。教員出身である私は、このような機能を持つ博物館の存在を学校に伝え、活用してもらおうようにしなくてはならないと考えました。

逆に学校から見た博物館はどのような施設なのでしょう。知り合いの教員からは「敷居が高い」とか、「実際に行ってみると面白いが、忙しくてそんな時間はない」と言われてしまいます。確かに教員時代の自分自身を振り返ってみても、忙しくてそれどころではなかったと振り返ります。しかしながら、どうにか時間のやりくりをつけて校外学習で博物館に来館していただき、教科書に出てくる実物の資料を見たときの子どもの目の輝きを先生方にも見てもらいたいと思うのです。

学校と博物館とが一体となって子どもたちの学びに向けて何ができるかを考えたとき、博物館には収蔵資料や学芸員といった学びの資源があります。これらの資源を活かした取り組みとして、2014年から先生方の夏休み中の研修として「教員のための博物館の日」を開催してい

ますし、教育利用目的であれば一般向けに開催される全ての講座の見学を可能にしています。その他にも、以下について利用いただくことができます。

学校が博物館でできること

- ・見学（校外学習）※下見を含む
- ・館内授業（講義・ワークショップ）
- ・ホームページ：教科書に出てくる博物館資料
- ・授業に関する相談



学芸員による展示解説（館内授業）

博物館が学校でできること

- ・学芸員派遣（チームティーチングを含む）
- ・資料や教材の貸出
- ・出前展示「博物館がやってくる」（自然部門・人文部門）



学校&地域でアート「アーティストの世界にふれてみよう」出前授業

先生方からの利用の申込を心よりお待ちしております。授業に関して何か困りごとがあれば、お気軽に博物館までご連絡ください。専門の学芸員が誠意を持って対応いたします。そこで、先生方と学芸員との繋がりができればこれほどうれしいことはありません。そのような関係を先生方につくっていただきたいと願いながら、連携の取り組みを推進しています。（学芸課 たなか ひろあき 田中 博昭）

鳥取県立博物館 学校連携担当：0857(26)8044



「教員のための博物館の日」講演会

変わらない標本・変わる価値観

— 鳥取砂丘から消えたハラビロハンミョウから考える —

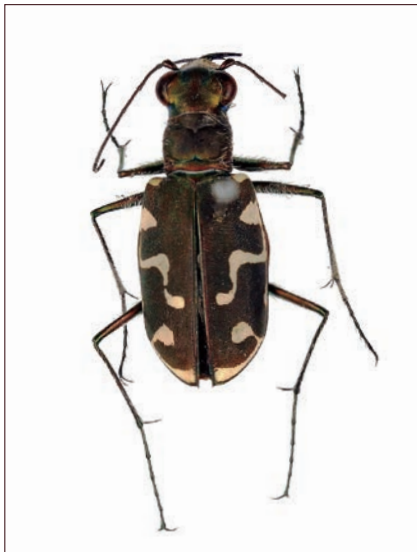


写真1：ハラビロハンミョウ（鳥取市 1983.5.5）／環境省：絶滅危惧Ⅱ類、鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類



写真2：鳥取砂丘のトラクターによる除草作業（2001.8.20）／撮影：清末幸久

消えたハンミョウ

博物館にはさまざまなモノが保存されています。そんな中に、鳥取県内の野外では見られなくなった、すなわち絶滅した生きものの標本もあります。

写真1はハラビロハンミョウという昆虫です。ハンミョウというと全身が赤・青・緑に輝く種類がよく知られていますが、ハンミョウ類の多くは地味な色彩です。このハラビロハンミョウは砂浜などに生息する種類で、鳥取県内では近年、鳥取砂丘と小沢見で確認されていました。しかし、1997年の鳥取砂丘での確認を最後に絶滅したと考えられています。ハラビロハンミョウが見られたのは「オアシス」と呼ばれる水たまり周辺です。この辺りは国の天然記念物で、国立公園特別保護地区でもあります（写真2）。自然が守られているはずの場所で、なぜハラビロハンミョウは姿を消したのでしょうか。

消えた原因は何？

生きものが生き続けるためには、幼い世代の生活環境が守られていることが重要です。昆虫の場合、成虫には翅はねがありエサを探して移動できますし、敵から逃げることもできます。しかし、

幼虫は翅がないまま生きていかなければなりません。ハンミョウ類の幼虫は、地面に縦穴の巣を作って潜み、その上を通りかかる小動物を捕獲しています。巣穴が維持され、小動物が生息するためには、草がまばらに生えた砂浜であり続ける必要があります。

ハラビロハンミョウが姿を消した1997年前後、鳥取砂丘では毎年、トラクター等による機械除草と手作業による除草が行われていました（写真2）。除草と絶滅に関係があったのでしょうか？ 確かなことは分かりませんが、鳥取砂丘には他にもカワラハンミョウやイソコモリグモなどの希少な海浜性動物が植物の生えている周辺に生息しているので、除草が与える影響を考慮する必要があります。鳥取大学地域学部の調査によると、現在エリザハンミョウという種類が鳥取砂丘ではオアシス周辺にしか巣を作っておらず、個体数も安心できる数ではないため、ハラビロハンミョウに続いて絶滅するかもしれないと心配されています。

標本から学ぶ

鳥取砂丘の今の姿は、戦後の「砂丘緑化論争」をはじめ、数々の議論を繰

り返してきた結果です。植林をした時代、砂防林を伐採した時代、そして現在は除草範囲が広げられ、何千人というボランティアも参加して人力除草が続けられています。時代とともに砂丘に対する価値観は変化してきたのです。これからの鳥取砂丘はどういう姿であるべきか、その価値観を作るのは今を生きる私たちです。

鳥取県で絶滅した生きものは他にもあり、博物館にはその標本が保存されています（写真3）。標本は変わらないまま次世代へ受け継がれていきます。それは博物館の使命です。一方で、私たちは、その標本から何かを感じとり、過去と今と未来を繋ぐため、私たちのあり方を考え続けていかなければいけないのです。

（学芸課 かわかみ やすし 川上 靖）



写真3：オオウラギンヒョウモン裏（大山榊水原 1960.7.7）／環境省：絶滅危惧Ⅰ類、鳥取県：絶滅／1960年代までは大山などの草原に生息していた。

鳥取藩の鷹場を描いた絵図



御留場絵図 (鳥取県立博物館蔵)

今年の干支にちなみ、生態系のなかで鳥類の頂点に君臨する鷹に関する資料を紹介します。左の写真は、江戸時代前期の鳥取平野全体を描いた最も古い絵図ですが、単に平野を描くことが目的だったわけではありません。実は藩主が鷹狩りをする範囲（鷹場）を示すために作成したものでした。写真では小さいのでわかりませんが、絵図を細部まで見ると平野を取り囲むように、小さな杭の絵が40か所以上も描かれています。この杭は、狩猟のための鉄砲使用を禁止している境界を示すために設置されたものでした。

江戸時代の鷹狩りは、誰でも自由に出来たわけではなく、基本的には大名に限られました。鳥取藩では二代藩主池田綱清や、十代池田慶行が民情視察、軍事訓練、遊興を兼ねて、鷹狩りを愛好しました。そのため絵図に描かれた鷹場では、狩猟場としての環境を維持するため、鉄砲使用の禁止以外にも様々な制約が課せられました。

(学芸課 来見田 博基)

コラム

大山・三宝荒神社跡での荒神神楽

神楽を含む民俗芸能は「郷土色を持ち、信仰と結びついて伝統的に行われてきた」もので、その地域の決められた場所で行われることに意味があるとされてきました。

他方、誰でも気軽に鑑賞できる、民俗芸能大会という催しがあります。また、鳥取県西部や島根県のショッピングセンターでは、この地域で人気のある神楽がお正月の催事として上演されます。私はかねてから、そうした催しものにはない本来の信仰に基づいた民俗芸能を見てもらうことができなかと考えていました。

当館の平成28年度の企画展「大山◎荒神展」は、会場を大山寺・圓流院を会場として開催しましたが、会期中の関連行事として、荒神神楽を鑑賞する

「見学会『まるごと荒神神楽』」を企画しました。

期日は11月3日、文化の日。場所は大山の西明院谷にある三宝荒神社跡です。出演は、比婆荒神神楽社、下蚊屋荒神神楽保存会明神社、鳥取荒神神楽研究会神楽団の3団体で、演目も神事舞に始まり、神能「八重垣」・「国譲り」を含む、およそ6時間の長丁場でした。

国立公園内でしたが土地所有者の御理解をいただき、事前に所定の手続き(特別地域内工作物及び広告物申請)を取って臨みました。

当日は肌寒かったものの晴天に恵まれ、トレッキングの方や登山客も足を止めて見入っておられ200人を越す方々に神楽を楽しんでいただきました。中には、防寒装備を整えてお弁当



仮設舞台上での「下蚊屋荒神神楽(八重垣)」



「比婆荒神神楽(国譲り)」をみる観客

を持参し、最初から最後までいてくださった方もいらっしゃいました。

最後に反省をひとつ。「機材や荷物を持ち込むのに人力に頼る以外ないのでくたびれた。もう少し便利なところでやってください。」参加者、そして関係者からもこう言われたのでした。

(学芸課 福代 宏)

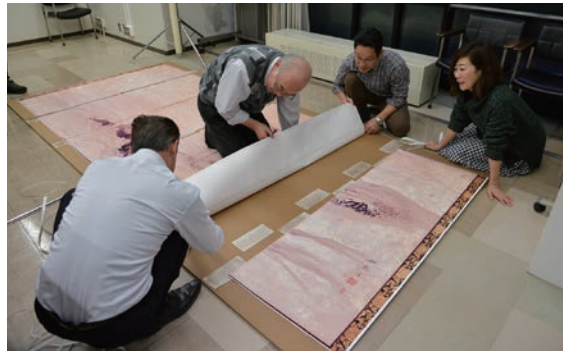
屏風レプリカで鑑賞授業

写真は、当館所蔵の土方稻嶺（1741-1807年）作《鶴に帰雁図屏風》の実物大レプリカの制作風景です。「屏風の大きさと立体感ができるだけ伝わるかたちで鑑賞授業をしたい。」という中学校の先生からの依頼を受け制作することとなりました。六曲一双のこの作品の、左隻には雁の群れが、右隻にはそちらを振り向くように見つめる鶴が水を隔てて描かれています。どちらも高さ162cm・幅367cmのとても大きな屏風です。凹凸をつけて置いた時に、より効果的に見えるもの、描かれたものからたくさんストーリーが生まれるものという視点で選択しました。

その大きさから考えても当館のスタッフだけでは作業が困難なこと、制作

過程で360度可動する屏風の紙蝶番の仕組みを体験できることなどから、先生方との共同作業の時間も設定しました。二枚の板に和紙の蝶番を互い違いに貼り付けながら、「この仕組みを応用したからくりおもちゃの授業もできるかも」と教材開発に繋がるアイデアも出てきました。

授業は屏風を持ち運び開くところから始めよう、教室には畳を敷こうとアイデアは尽きません。急遽手作りした、画像もやや荒い屏風ではありますが、デジタル画像では伝わらない大きさと奥行きに、子どもたちがどう反応する



和紙の蝶番を貼り付けた板に屏風の画像を貼り付けていく様子

のかとても楽しみです。今後も様々なかたちで当館コレクションに関心を持っていただくとともに、楽しく有意義な連携を続けたいと思っています。みなさまからのリクエストをお待ちしています。

(美術振興課 佐藤 真菜)

※ 屏風レプリカ貸し出します。 申込：美術振興課（0857-26-8045）

コラム

旅する展覧会 ～「日本におけるキュビスムーピカソ・インパクト」～

「日本におけるキュビスムーピカソ・インパクト」は平成28年10月1日から11月13日まで本館で開催され、その後、埼玉県立近代美術館、高知県立美術館を巡回しました。

昨年の10月、鳥取県立博物館でオープンした「日本におけるキュビスムーピカソ・インパクト」は昨年の11月から1月にかけて埼玉県立美術館、2月から3月にかけて高知県立美術館という日本各地、三会場をめぐる。この展覧会は三年くらい前から準備を始め、開催館についても当初はさらに数館の巡回を予定していました。巡回館が決まってからも三館の学芸員がのべ15回にわたって会議を開いて、展覧会のテーマ、出品作品や展示の構成について話し合いました。私としてもこれほどじっくり準備を重ねた展覧会は珍しく、大きな感慨とともに開幕を迎えました。半年にわたる長い会期の展覧会でもあるため、会場を限定された

作品も多く、特にピカソの借用には苦勞しました。この結果、会場が違えば、別の展示を訪れたような印象を受けることとなります。

会場の広さや構造は巡回館ごとに異なりますし、展示可能なピカソの作品も会場ごとに異なります。担当学芸員はパズルを解くかのように、あらかじめその会場に最適な配置を考え、場合によってはその場で変更を加えます。このようなライブ感が私にとって展示の最大の楽しみです。今回は輸送や講演の



鳥取展覧会場風景

ためにほかの二会場も訪れました。それぞれの会場で学芸員の苦勞を想像し、時に趣を一新した作品に出会うことは刺激的な体験でした。

(副館長兼美術振興課長 尾崎 信一郎)

イベント案内:前期(4~9月)

★申込み・問合せ:学芸課(0857-26-8044)・美術振興課(0857-26-8045)

●自然部門 ●歴史・民俗部門 ●美術部門(毎週土曜はアートの日!)
 ☺幼児(親子)参加OK ☑申込受付

2017 4 APR.	☺《よりみちアート&ちょこっとシアター》 上映作品「はらべこあおむし他」(約33分)	■4月1日(土)13:00~16:30(※毎時00分に再生)/講堂、休憩スペース ■幼児~一般/定員なし/無料
	《歴史講座》 建武政権・初期南朝の軍事体制と名和長年	■4月8日(土)10:00~12:00/会議室 ■一般/20名/無料 ※鳥取地域史研究会との共催
	《アートシアター》 上映作品「プライスコレクションDVD①」(約60分)	■4月8日(土)11:00~12:00、①14:00~15:00/講堂 ■高校生~一般/定員なし/無料
	《スペシャルギャラリートーク》 リーチ作品の魅力語る~その思い出とともに 講師:山本教行(陶芸家・クラフト館若井堂主宰)	■4月15日(土)14:00~15:00/講堂・展示室 ■高校生~一般/250名/観覧料
2017 5 MAY.	《特別講演会》 バーナード・リーチの生涯と芸術 講師:鈴木慎宏(美術史家・お茶の水女子大学准教授)	■4月22日(土)14:00~15:30/講堂 ■高校生~一般/250名/無料
	《ギャラリートーク》 生誕130年 バーナード・リーチ展	■4月29日(土)14:00~15:00/展示室 ■高校生~一般/定員なし/観覧料
	貴重なSPレコード音源と映像で楽しむ 「Leach. 河井寛次郎、濱田庄司、柳宗悦司会・座談会」 (日本民藝館制作、約23分)	■5月6日(土)①11:00~11:40、 ②14:00~14:40、③15:00~15:40/講堂 ■高校生~一般/250名/無料
	《歴史講座》 古戦場・山城・荘園を歩く~岩井庄と道竹城~	■5月7日(日)10:00~15:00/岩美町周辺 ■一般/20名/無料 ☑4月20日(木)~、電話のみ
2017 6 JUN.	☺《ワークショップ》 落書きばんざい!	■5月13日(土)10:00~12:00、(12:00~13:00は休止)/博物館玄関前 ■幼児~一般/定員なし/無料
	☺《天体観望会》 春の星を見る会 講師:多賀利寛(鳥取天文協会)	■5月13日(土)、予備日14日(日)19:00~21:00/前庭 ■幼児~一般(中学生以下は保護者同伴)/定員なし/無料
	《野外観察会》 鳥取県生物学会と歩く「生物観察会」	■5月14日(日)10:30~14:30/博覧公園~太閤平(鳥取市) ■一般/30名(先着順)/無料 ☑4月27日(木)~、電話のみ[ただし、生物学会員は申込不要] ※鳥取県生物学会との共催
	☺《歴史講座》 縄土器形クッキー「ドッキー」をつくろう	■5月19日(金)・20日(土)9:30~12:00/会場未定 ■幼児~一般/各回10名/無料 ※両日とも同じ内容 ☑5月4日(木・祝)~、電話のみ
2017 7 JUL.	《ギャラリートーク》 生誕130年 バーナード・リーチ展	■5月20日(土)14:00~15:00/展示室 ■高校生~一般/定員なし/観覧料
	《野外観察会》 兵庫古生物研究会とのコラボ企画! 「化石をさがせ!」	■5月21日(日)10:00~13:00/若桜町春米 ■小学校高学年~一般/15名(先着順)/無料 ☑5月4日(木・祝)~、電話のみ ※兵庫古生物研究会との共催
	貴重なSPレコード音源と映像で楽しむ 「Leach. 河井寛次郎、濱田庄司、柳宗悦司会・座談会」 (日本民藝館制作、約23分)	■5月27日(土)①11:00~11:40、 ②14:00~14:40、③15:00~15:40/講堂 ■高校生~一般/250名/無料
	《ギャラリートーク》 生誕130年 バーナード・リーチ展	■6月3日(土)14:00~15:00/展示室 ■高校生~一般/定員なし/観覧料
2017 8 AUG.	《歴史講座》 鳥取漆器・佐治漆の産業と流通の変遷	■6月10日(土)10:00~12:00/講堂 ■一般/20名/無料
	《ワークショップ》	■6月10日(土)詳細未定 ☑5月26日(金)~、電話のみ
	《アートシアター》 2週連続上映 バンクシー・ダズ・ニューヨーク (2014/アメリカ/81分)	■6月17日(土)・24日(土)14:00~15:30/講堂 ■高校生~一般/250名/無料
	《ワークショップ》 アトリエ探訪&ワークショップ in 琴浦(仮) 講師:池山晃広(ジュエリーデザイナー)	■7月1日(土)時間未定/池山さんアトリエ(琴浦町) ■高校生~一般/詳細未定 ☑6月16日(金)~、電話のみ
2017 9 SEP.	《歴史講座》 三朝温泉鉄道敷設計画(仮)	■7月8日(土)10:00~12:00/会議室 ■一般/20名/無料 ※鳥取地域史研究会との共催
	《アートシアター》 偉大なるオペレーション フランク・ロイド・ライト 建築と日本 (2005/日本/130分)	■7月8日(土)14:00~16:20/講堂 ■高校生~一般/100名/無料
	《スペシャルワークショップ》	■7月15日(土)詳細未定
	《ギャラリートーク》 投げ込みカダ!アートをタイカン(仮)	■7月22日(土)14:00~15:00/展示室 ■高校生~一般/定員なし/観覧料

2017 7 JUL.	《自然講座》 顕微鏡で楽しむミクロの世界	■7月22日(土)①10:00~12:00、②14:00~16:00/会議室 ■小学生~一般/各15名(先着順)/無料 ☑7月6日(木)~、電話のみ
	《歴史講座》 一日まるごと日本刀 午前:刀剣講座、午後:小刀作り	■7月23日(日)10:00~15:00/会議室 ■小学生~一般/20名/無料 ☑7月6日(木)~、電話のみ
	《ワークショップ》	■7月29日(土)詳細未定
	☺《天体観望会》 夏の星を見る会 講師:多賀利寛(鳥取天文協会)	■7月29日(土)、予備日30日(日)19:00~21:00/前庭 ■幼児~一般(中学生以下は保護者同伴)/定員なし/無料
2017 8 AUG.	《歴史講座》 縄土土器をつくろう	■7月30日(日)9:30~12:00/会議室 ■小学4~6年生とその保護者/20名/無料 ☑7月13日(木)~、電話のみ
	☺《野外観察会》 川原の石をしらべよう!	■7月30日(日)10:00~15:00/和宗児橋(用瀬町)周辺の川原 ■幼児~一般/20名(先着順)/無料 ☑7月13日(木)~、電話のみ
	《自然講座》 さわってみよう!鳥のホネ	■8月5日(土)14:00~16:00/会議室 ■小学生~一般/20名(先着順)/無料 ☑7月20日(木)~、電話のみ
	☺《ワークショップ》 泥でアート!	■8月5日(土)14:00~16:00/地下バックヤード ■幼児~一般/20組(先着順)/無料 ☑7月21日(金)~、電話のみ
2017 9 SEP.	《サイエンスレクチャー》 遺跡の鳥のサイエンス~鳥取市・青谷上寺地 遺跡の骨からペルー・ナスカの地上絵まで~ 講師:江田真毅(北海道大学総合博物館)	■8月6日(日)14:00~16:00/講堂 ■小学生~一般/250名/無料
	《歴史講座》 近世鳥取城下町のごみ問題について	■8月12日(土)10:00~12:00/会議室 ■一般/20名/無料 ※鳥取地域史研究会との共催
	☺《ワークショップ》 素材祭り2017	■8月12日(土)13:00~16:00/会議室 ■幼児~一般/定員なし(材料がなくなり次第終了)/無料
	《歴史講座》 巻物を作ろう(仮)	■8月13日(日)14:00~15:30/会議室 ■小学生/20名(保護者含む)/無料 ☑7月27日(木)~、電話のみ
2017 9 SEP.	《自然講座》 標本しらべ相談室	■8月19日(土)10:00~17:00/会議室 ■小学生~一般/定員なし/無料
	☺《アートシアター》 ユーリー・ノルシュテイン監督特集上映 「アニメーションの神様、その美しき世界」 (全6作品、合計80分)	■8月19日(土)14:00~15:30/講堂 ■幼児~一般/250名/無料
	《ワークショップ》 「浮かぶつばさ」をつくろう!	■8月20日(日)①10:00~12:00、②14:00~16:00/会議室 ■小学生~一般/各回20名/無料 ☑8月3日(木)~、電話のみ ※日本語フォーラムとの共催
	《民俗講座》 鳥取県の民話を聞く会	■8月20日(日)14:00~15:00/歴史・民俗展示室復興家コーナー ■小学生~一般/約40名/常設展示入館料
2017 9 SEP.	《歴史講座》 戦時下、倉吉周辺の軍需工場について	■8月20日(日)14:00~15:30/倉吉交流プラザ ■一般/60名/無料
	《アートシアター》 2週連続上映 LISTEN リッスン(2016/日本/58分)	■8月26日(土)・9月2日(土)14:00~15:05/講堂 ■高校生~一般/250名/無料
	《アートセミナー》 美術館とコレクション(仮)	■9月9日(土)14:00~15:30/会議室 ■高校生~一般/40名/無料
	☺《ワークショップ》 粘土でアート!	■9月16日(土)10:00~12:00、13:00~15:00/ホール、立体展示スペース ■幼児~一般/定員なし/無料
2017 9 SEP.	《サイエンスレクチャー》 宇宙と深海とすごい生き物たち~「はやぶさ」を見た!深海へ行ってきた!鳥取で大発見した!~ 講師:山根一真(ジャーナリスト)	■9月16日(土)14:00~16:00/講堂 ■小学生~一般/250名/無料
	《アートシアター》 アイリス・アプフェル94歳のニューヨーカー (2014/アメリカ/80分)	■9月23日(土・祝)14:00~15:30/講堂 ■高校生~一般/250名/無料
《ワークショップ》 カメラをもってまちあるき	■9月30日(土)詳細未定 ☑9月15日(金)~、電話のみ	

美術部門の詳細については、「毎週土曜はアートの日!」のリーフレットをご参照ください。

※特に記載のないものは申込不要です。※講座によっては材料費などが必要な場合があります。詳しくはホームページなどでご確認ください。※小学生以下は保護者同伴でご参加ください。
 ※託児サービス・手話通訳・要約筆記にも対応いたします。希望される場合は3週間前までにご連絡ください。

鳥取県立博物館ニュース No.23

平成29年(2017年)3月29日発行

編集・発行 鳥取県立博物館

住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地

TEL 0857(26)8042(代)

FAX 0857(26)8041

URL <http://www.pref.tottori.jp/museum/homepage.htm>

E-mail hakubutsukan@pref.tottori.lg.jp

- 入館料:常設展/一般180(150)円
()内は20名様以上の団体料金
- 開館時間:9時~17時(入館は16時30分まで)
19時(入館は18時30分)まで開館する場合あり。詳細はお問い合わせください。
- 休館日:毎週月曜日(祝日の場合は翌平日が休館日)
国民の祝日の翌日(土、日、祝日の場合を除く)
年末年始(12月29日~1月3日)
※具体的な休館日等は、ホームページでご確認ください。



- JR鳥取駅からバスで
- ①100円バス「くる梨」緑コース①仁園・県立博物館下車すぐ
- ②ループ駅前獅子②鳥取城跡下車すぐ
- ③砂丘・湖山・霞露方面行「西町」下車、約400m
- ④市内回り岩倉・中河原方面行「わらべ館前」下車、約600m
- JR鳥取駅からタクシーで...約10分
- 鳥取砂丘コナン空港から...鳥取駅行連絡バス「西町」下車、約400m
- お車で...鳥取自動車道・鳥取ICより約15分
※当館駐車場21台駐車可能・満車の場合は県庁北側駐車場無料引換

お客様の満足の笑顔へ...

MORRIX
株式会社モリックスジャパン
TEL 0857-23-3641
本社 鳥取市南町2-3-6
鳥取市下中町870 中瀬ビル3F
<http://www.morrix.co.jp/>

引越は日通
フルダイヤル ひっこしは日通
0120-154022